

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【福島県・福島市】

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	福島市立福島養護学校 小学部4～6年生 6名 中学部1～3年 25名 高等部Iコース1・2・3年 43名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ( 体育科・保健体育科 ) ② 行事名 ( 合同スポーツ大会(中) 福島県特別支援学校 スポーツ大会(高) ボッチャ体験教室(全) ) ③ その他 ( ) (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ) ② その他 ( )
4 目標 (ねらい)	2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて、実施種目を知ったり、実際に「ボッチャ」競技に取り組んだりすることができる。  小：児童の実態に応じて、パラリンピック種目である「ボッチャ」を体験し、競技体験により運動の楽しさを味わうことができる。 中：生徒の実態に応じて、「ボッチャ」のルールを理解し、友達や先生のアドバイスを受け入れながら競技を体験する。 試合による勝敗を通して競技の楽しさを味わうことができる。 高：生徒の実態を考慮しながらチームを編成し、試合の体験をとおしてルールや試合のポイント（攻め方、守り方）を理解し、競技の楽しさを味わうことができる。
5 取組内容	【4月24日(火)～5月15日(火)】 ○ 保健体育の授業において、様々なスポーツに親しむため、選択種目Iとして、4つの種目に分かれて授業を行った。 ○ 実施種目 ・ バスケットボール ・ フライングディスク ・ 卓球 ・ ボッチャ

	<p>【夏季休業中】</p> <p>○ スポーツ大会の参加者が決まり、それぞれの種目において、学校で練習を行った。他校の体育館や、競技場を借用して専門的な練習を行うことができた。</p> <p>【8月28日（火）】</p> <p>○ 保健体育の授業で、オリパラ学習（I'm possible 活用）</p> <p>【8月30日（木）～ 10月3日（水）】</p> <p>○ 保健体育の授業において、選択種目Ⅱとして、5つの種目に分かれて授業を行った。スポーツ大会の参加者は、それぞれの参加種目の授業で体力・技術向上を図った。</p> <p>【9月20日（木）】</p> <p>○ 福島県立大笹生支援学校教諭 國分章夫先生による、「校内ボッチャ体験教室」の開催。 午前：小・中学部児童生徒による体験教室 午後：高等部生徒による体験教室 放課後：教職員による体験</p> <p>【10月2日（火）】</p> <p>○ 福島地区小中特別支援学級、特別支援学校中学部合同スポーツ大会（フライングディスク、ボッチャ）において中学部生徒が参加した。</p> <p>【10月6日（土）】</p> <p>○ 福島県特別支援学校スポーツ大会に、陸上競技、バスケットボール、フライングディスク、ボッチャの4種目において高等部生徒が参加した。</p>
<p>6 主な成果</p>	<p>○ 「ボッチャ」体験学習を通して、ルールがわかりやすい八角的を使った得点ゲームに挑戦し、ボッチャの楽しさや難しさを体験したりすることができた。また、パラリンピック競技の楽しさも多少なりとも味わうことができた。（小）</p> <p>○ 「ボッチャ」の体験学習により、ボッチャの楽しさを味わうことができた。（中）</p> <p>○ 「ボッチャ」体験により、「ボッチャ」の難しさと共に楽しさを味わうことができた。まとめの学習を通してさらにオリンピック・パラリンピックについていろいろなことを知りたいという意欲の高まりが見られた。</p>
<p>7実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<p>○ 配当予算の中で、ボッチャの練習に使用する八角的を購入した。体験教室をきっかけにして、体育科の授業にも取り入れ、児童生徒の興味関心の高まりと共に、狙ったところに正確に投げる技能の高まりも見ることができた。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 専門的な講師をお呼びしたことで、子ども達に「ボッチャ」競技への関心を持たせ、活動意欲を向上させるのに有効であった。</li> <li>○ 学習の振返りとして、新聞作りを取り入れたことで、オリンピック・パラリンピックへの興味関心を高めることができた。もっとやってみたい、楽しみたいという意欲付けにつながることができた。</li> <li>○ 教員が、指導者講習会に参加し、指導法やルールを学び、学校での指導に生かすことができた。</li> </ul>
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 知的領域の特別支援学校（養護学校）という児童・生徒の実態上、個々の興味関心や身体能力等の個人差が大きい。実態に応じた運動の楽しさをどのような体験させればよいか、運動の場の工夫等について考えていく必要がある。</li> <li>○ 体験的な活動により、活動を通して理解が深まっていく様子が見られた。競技種目への関心の高まりの他、福島市がオリンピック種目（野球、ソフトボール）の開催県である事、聖火リレースタートの県であること。地元にはたくさんの人々が訪れるということから、たくさんの人々を受け入れ、歓迎する取組についてどうあればよいか、児童生徒の意見も取り入れながら、活動内容を工夫していく必要がある。</li> <li>○ 高等部生徒のスポーツ大会への参加をより促すため、1学期は選択種目Ⅰとしてではなく、4種目を全生徒に取り組ませ、自分の向いている種目や取り組みやすい種目を考えさせることも必要。</li> </ul>
9来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 内容の精選をしながら、今年度同様保健体育の授業の中で選択種目を実施し、来年度もスポーツ大会に多くの生徒を参加させたい。</li> <li>○ オリンピック・パラリンピック前年ということで、様々な行事の中で、全学年で関連を意識した取り組みを企画し、実施したい。</li> </ul>